

未来をつくる実践目標

チャレンジ 2022

【ver.2】

(令和4年度 主要政策)



令和4年11月

福井県

はじめに

福井県では、「2040年のふくい」の将来像を県民の皆さんと共有する「福井県長期ビジョン」を令和2年7月に策定し、長期ビジョンに基づく県政運営を行っています。

このため、令和2年度から、毎年度、県がどのような姿を目指し、どのような政策を進めようとしているのかを、「実践目標」として長期ビジョンの体系で整理し、県民の皆さんに分かりやすくお示ししています。

また、長期ビジョンでは、北陸新幹線福井・敦賀開業を迎えるこの5年間に最重点化して実行する政策を「新時代スタートアッププロジェクト」と位置付けており、その主なプロジェクトを冒頭にまとめています。

今回、令和4年度の主要政策の実践目標「チャレンジ2022」について、上半期の主な成果および追加の施策を「ver.2」としてとりまとめました。

各政策の実行に当たっては、県民、市町、企業、団体の皆さんとの連携を重視し、「チームふくい」で進めていきます。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

分野ごとの主な施策

(令和4年9月時点)

分野	目指す姿	主な施策		目標(KPI)	
		ver.1	ver.2	ver.1	ver.2
学びを伸ばす (人材力)	17	143	145	134	136
成長を創る (産業力)	18	122	133	115	122
楽しみを広げる (創造力)	16	143	148	150	155
安心を高める (地域力)	16	106	108	122	124
ともに進める (総合力)	9	39	39	31	31
合計	76	553	573	552	568

※年度途中に必要なに応じ施策の追加を行っています。

目次

上半期の主な成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

新時代スタートアップ主要プロジェクト

- (1) ふくいエンタメ計画・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
～ふくいの魅力をとがらせよう～
- (2) 次世代チャレンジ宣言・・・・・・・・・・・・ 10
～チャレンジで未来をつくろう～
- (3) しあわせアクション運動・・・・・・・・・・・・ 15
～一人ひとりがプレイヤーになろう～

令和4年度 分野別の主な施策（別冊）

※補正予算により追加となった施策のみ掲載しています。

- I 学びを伸ばす（人材力）・・・・・・・・・・・・ 3
 - 政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成
 - 政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現

- II 成長を創る（産業力）・・・・・・・・・・・・ 4
 - 政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ
 - 政策6 地域経済のイノベーション
 - 政策7 Society 5.0時代の新産業創出

III 楽しみを広げる（創造力）・・・・・・・・・・・・ 6

- 政策9 100年に一度のまちづくり
- 政策10 北陸新幹線開業効果を最大化
- 政策12 文化・スポーツがふくいの活力

IV 安心を高める（地域力）・・・・・・・・・・・・ 7

- 政策16 防災・治安先進県ふくいの実現

※項目については、長期ビジョンの体系で整理しています。

参 考 持続可能な開発目標（SDGs）

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指し、国際社会が協調して取り組む世界共通の目標です。

2030年を年限とする17のゴールの下に、169のターゲット、232の指標が定められており、日本においては、「あらゆる人々の活躍の推進」、
「健康・長寿の達成」など8つの優先課題を掲げた実施指針を策定し、取り組みを進めています。



SDGsの17のゴール（目標）

1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	10 人や国の不平等をなくそう	各国内および各国間の不平等を是正する
2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	11 住み続けられるまちづくりを	包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する
3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子の能力強化を行う	14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさを守ろう	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る
8 働きがいも経済成長も	包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する。	17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーション（技術革新）の拡大を図る		

上半期の主な成果

県民主役の県政運営

幸福度ランキング5回連続1位



(一財)日本総合研究所が公表した「全47都道府県幸福度ランキング2022年版」において、5回連続で総合1位となりました。

これは、県民のみなさまの日々の努力の賜物です。今後も「ふく育県」の充実や、若者や女性をはじめ県民が活躍できる場の創出など、ウェルビーイング日本一「しあわせ先進モデルふくい」に向けて、全力を挙げて県政を邁進していきます。

ふくいSDGs月間 ジュナナ・チャレンジを初めて実施



「ふくいSDGsパートナー」の取組みをPRするとともに、県民のSDGs活動実践を促進するため、9～10月を独自のSDGs月間に設定。パートナーが実施する134件の県民向けSDGs関連イベント等を一体的に広報しました。

期間中は福井県庁においても、マイボトル運動やペーパーレス推進などの取組みを強化しました。

開業・開通に向けた知事と市町長との 政策ディスカッションを県内各地で開催



ディスカッションの様子

北陸新幹線開業や中部縦貫道開通などの交通網の整備を観光誘客などの地域活性化に最大限活かすべく、県と市町が一体となったまちづくりや機運醸成等について意見を交わす市町長との政策ディスカッションを県内3カ所で開催しました。

開業・開通に向け、取り組む重点事項などについて意見交換し、受入態勢の強化など意識の共有を図りました。

誰もがチャレンジできる社会に

福井発スタートアップの育成



起業家発掘育成プログラム「Promoters」告知イベント

新しい資本主義の実現に向け、成長の牽引役として期待されるスタートアップについて、若手起業家が集うベンチャー経営塾や県内経営者へのセミナーを開催しました。また、100億円の「地域経済循環ファンド」の創設に加え、学生や若者のスタートアップ創出に向けた起業家発掘育成プログラム「Promoters」の告知イベントを開催するなど「福井型エコシステム」を推進しています。

多文化共生の推進



ウクライナからの避難家族と面談

多文化共生の地域づくりを行う団体に向けた「多文化共生推進応援金」による支援に加え、地域住民とのコミュニケーションの橋渡しや災害時の自助・共助を担う「外国人コミュニティリーダー」の委嘱により、多文化共生を推進しています。

また、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う避難民の方々が県内で安心して生活できる環境を整えたほか、日本語学習や就労等に関する支援を行っています。

若者のチャレンジを応援



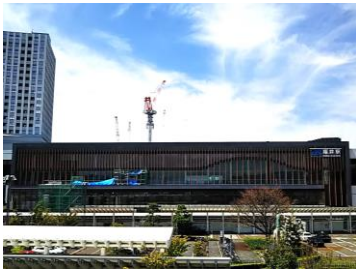
「エキセントリック・カレッジふくい」開校式

地域のリーダーとなる若者を育成する実験的仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」を9月に開校しました。今後、県内外のエキセントリックな講師を招き、様々な講義やフィールドワークを実施していきます。

県の若手職員が企画立案する「チャレンジ政策提案」を行いました。14チームが知事へプレゼンし、過去最多の73名の職員が参加しました。

百年に一度のまちづくり・にぎわいづくり

高速交通網の整備促進



福井駅外観

北陸新幹線の3駅舎（芦原温泉、福井、越前たけふ）の建設工事が完了するなど新幹線開業に向け工事が着実に進捗しています。敦賀以西は、令和5年度当初着工に向け、政府・与党への要請強化や沿線全体の機運醸成を図りました。

中部縦貫道は、勝原、荒島、下山、九頭竜の各ICの名称が正式決定し、県内道路最長のトンネルが貫通するなど、年度内の勝原IC、来年秋の九頭竜ICまでの開通に向け、順調に整備が進んでいます。

県内観光地の磨き上げ



一乗谷朝倉氏遺跡博物館オープン

10月1日に一乗谷朝倉氏遺跡博物館を開館しました。また、恐竜博物館のリニューアル工事や六呂師高原に新たに参入する民間事業者の誘致・選定、三方五湖レークセンターの整備などを進めています。

県内宿泊者増加に向け、民宿の改修を進めるとともに、魅力あふれるリゾートホテルの整備・運営に向けて星野リゾートと協定を締結しました。

魅力あるまちづくり



県都グランドデザイン（案）
将来像のイメージ

県都にぎわい創生協議会において、「誰もが主役に！楽しさあふれる県都」を将来像とした「県都グランドデザイン（案）」をとりまとめました。

7月から並行在来線会社「株式会社ハピラインふくい」が本格始動しました。新駅整備や駅を中心としたまちづくりなどに着手しています。

魅力的なスポーツイベントの開催



北陸新幹線開業実感リレーウォーク

ふくい桜マラソン開催に向けた機運を醸成するため、初心者でも気軽楽しめるランニングイベントを毎月実施しました。また、多くの県民のみなさまに新幹線開業を実感いただくため、北陸新幹線開業実感リレーウォークを開催しました。

ふくい県民応援チームの福井丸岡RUCKと福井ユナイテッドFCの連携により、フットサルとサッカーの両方を1日で楽しめる「フットボールデー」を開催しました。

WAKASARIフレッシュエリア



若狭湾サイクリングルート

敦賀駅から若狭高浜駅を結ぶ若狭湾サイクリングルート（わかさいくる）のロゴマークが決定しました。ナショナルサイクリングルートの指定に向け、案内看板等の整備やモニターツアーの開催を進めています。

三方五湖周辺ではレインボーライン山頂公園にレストランがオープンしたほか、ブライダル聖地「YUMI KATSURA MUSEUM WAKASA」が開館しました。

ふくいの食のトップブランド化



いちほまれ新CM発表会

じゃらん宿泊旅行調査2022の「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」ランキングで全国1位になりました。

誕生5周年を迎えたいちほまれは、新米販売開始に先がけ、9月に鈴木福さん、誉さん兄妹を起用した新CM発表会を開催しました。また、北陸新幹線で獲れたての「ふくい甘えび」の輸送を始めたほか、首都圏で活躍するトップシェフを講師に迎え人材を育成する「サスティナブル・カリナリー・カレッジ」を開講しました。

D Xによるポストコロナの社会変革

D Xで暮らしを豊かに



データ連携基盤のイメージ

デジタルサービスをつなぎ、地域課題解決を図る新たなサービスを創出するデータ連携基盤を整備しています。現在、子育て世帯を対象としたプッシュ型のクーポン発行に向け、ふく育パスポートとふく割との連携を進めています。

そのほか、スマート農林水産業の推進や県制度融資手続の電子化など、県民や企業の日常に密着したデジタル利用を推進しています。

コロナ・物価高騰からの経済再生

新型コロナからの経済再生に向けた消費喚起策として「ふく割」を発行し、県民の約半数の方に日常的に利用いただいています。また、近隣府県と相互に対象を拡大した「ふくいdeお得キャンペーン」を実施しました。

さらに、コロナ禍における物価高騰などの影響を受けた事業者への制度融資の創設や保証料補給により、事業継続を支援しました。



安全安心なふくいの実現

誰もがうらやむ「ふく育県」へ



今年度から子育て支援予算を倍増（子ども1人当たりの予算額全国1位）し、第2子の保育料無償化の範囲を拡充したほか、全天候型の遊び場の整備や特定不妊治療費助成制度拡充、男性トイレへのおむつ交換台の設置（ベビサポトイレ）などを進めています。

7月には、企業や行政などが一体となり、赤ちゃんを育てやすい社会の実現を目指す「ベビーファースト運動」に参画しました。

令和4年8月大雨災害への対応



武田自民党災害対策特別委員会委員長への大雨災害に関する緊急要請

8月に発生した大雨災害においては、速やかな応急対策を行うとともに、嶺北と嶺南の交通が遮断された際には移動手段を確保し、5千人を超える方々が利用しました。

国への緊急要請を行い、早期の激甚災害への指定などを求めたほか、被災した道路や河川、農地等の速やかな復旧や再度の災害防止対策を全力で進めています。

ものづくりから価値づくり

高付加価値企業等の立地を推進



シンフォニー吉田酒造(株)酒蔵新設報告

企業立地セミナー等での知事トップセールスを契機として、海外企業と共同で日本酒の輸出拡大を図る企業の進出が実現しました。

昨年度に新設した補助制度を活用し、県外のIT企業がシステム開発の拠点となるオフィスを県内に新設しました。

農林水産業を成長産業へ



あわら市清滝の実証地の様子

条件の良い森林において、所有者と事業者の間で10年程度の長期一括契約を締結し、効率的な主伐、再造林・保育を行うことにより収益の向上等を図る「ふくい型林業経営モデル」の構築を目指します。9月からは伐採から運搬までの作業の効率化などの現地実証を行っています。高精度の森林情報共有・活用するため、航空レーザ計測を進めるとともに、自治体や林業事業者間で森林情報を共有する森林クラウドシステムを整備しています。

新時代スタートアップ

主要プロジェクト

2020年～2024年の合言葉は \\ とんがろう、ふくい //  長期VISION
新時代スタートアップ★プロジェクト

ふくいの魅力をとがらせよう

～ふくいエンタメ計画～

観光や文化、スポーツなどのとがった魅力でたくさんの人を呼び込もう！

みんなが楽しめるまちを作ろう！

チャレンジで未来を作ろう

～次世代チャレンジ宣言～

おもしろい仕事をみんなで増やそう！

みんながしあわせな、新しい働き方を実現しよう！

一人ひとりがプレイヤーになろう

～しあわせアクション運動～

一人ひとりのできることを考えて、持ち寄ろう！

みんなの「小さなアクション」を積み重ねて、ふくいを変えよう！



(1)ふくいエンタメ計画 ~ふくいの魅力をとがらせよう~

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、
県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなで作ります。

○観光・まちづくりに重点投資

新幹線駅周辺のまちづくり

北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出します。

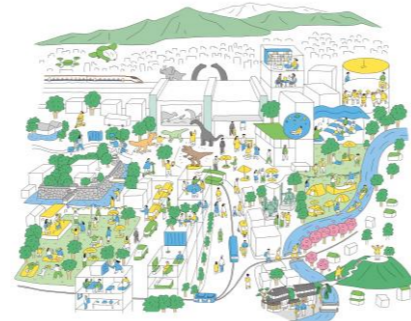
■ 福井駅西口市街地再開発を支援

福井駅前電車通り北地区において、A街区では建築工事等に対する支援、B街区では解体工事等に対する支援を行っています。



■ 福井駅周辺のにぎわいづくりに向けた官民連携によるまちづくりを推進

県都にぎわい創生協議会において、「誰もが主役に！楽しさあふれる県都」を将来像とした「県都グランドデザイン(案)」をとりまとめました。



県都グランドデザイン(案)将来像のイメージ

■ 「福井城址活用検討懇話会」の提言に基づき、福井城址の活用を推進

福井城址の活用に向けた気運醸成を図るため、福井城セミナーを開催しました。また、石垣のライトアップ整備の準備などを進めています。



■ 各新幹線駅の駅前広場や観光交流センター等の整備を促進

芦原温泉駅の西口賑わい施設や福井駅、越前たけふ駅の観光交流センター、敦賀駅の新幹線駅前広場などの整備に対して支援を行いました。



芦原温泉駅 西口賑わい施設「アフレア」パース図

■ 金ヶ崎地区を中心に氣比神宮など周辺エリアを含む敦賀のまちづくりを推進

金ヶ崎周辺魅力づくり協議会において、金ヶ崎地区のオーベルジュを核とした複合施設整備や、氣比神宮の大鳥居に面する神楽通りの参道化等について協議を行いました。



■ 観光型MaaSを推進

観光型MaaSの導入に向け、市町や交通事業者等との検討会を開催しました。



観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や観光列車の運行などを推進し、新幹線開業に向け、誘客を拡大します。

■ 恐竜博物館のフルモデルチェンジに向け、整備を促進

世界に誇る恐竜化石の研究ならびに情報発信の拠点を目指し、恐竜研究を体験できる「化石研究体験教室」の設置など恐竜博物館の機能強化を図るための整備を進めています。



■ **東尋坊・三方五湖エリア**における観光拠点整備を支援

東尋坊の駐車場一元化や、三方五湖の新レークセンター等の整備を支援しています。



■ **六呂師高原**の活性化策や誘客の柱となる事業を検討

六呂師高原活性化構想の実現に向け、民間事業者の誘致・事業者選定を進めています。



■ **若狭湾サイクリングルート**の走行環境・受入環境等を整備

ナショナルサイクルルートの指定に向け、案内看板等の整備、モニターツアーや地域でのワークショップの開催、SNSによる情報発信等を進めています。



■ 県内へ**リゾートホテル**を誘致

県内複数か所におけるリゾートホテル整備運営について、星野リゾートと協定を締結しました。



■ 福井を舞台とした**大河ドラマ**や**朝ドラ**を誘致

4月および5月にNHKに対し本県ゆかりの人物を主人公とし、本県が舞台となるドラマの実現を要望しました。5月に、令和6年の大河ドラマは、本県ゆかりの紫式部が主人公の「光る君へ」と発表されました。



■ **日本一選ばれるお米「いちほまれ」** に向け販売店舗を拡大

4月からJAと一体となって卸業者へ販促活動を実施し、量販店での販促キャンペーンに対する支援を行うことで、取扱店舗数を拡大しました。また、9月には鈴木福さん、誉さん兄妹を起用したいちほまれのCM発表会を開催しました。



■ **「日本一のそばどころ」**ふくいを全国に発信

本県の特徴ある在来種そばを広く味わってもらうため、8月から「おいしい福井県産そば使用店」の参加店舗をめぐる「スマホ de スタンプラリー」を実施しました。



■ ブランド魚「若狭ぐじ」「**越前がれい**」「**ふくい甘えび**」「若狭まはた」等、四季を通して発信

5月から北陸新幹線を使って「ふくい甘えび」を首都圏に輸送し、水揚げの翌日に飲食店に提供しました。さらに、10月から「越前がれい極」を高級和食店に提供し、県産水産物の認知度と食の魅力向上を図ります。



■ **新しい代表食材5品目**の一体的なプロモーションを強化

首都圏スーパーマーケットでの県産品フェアにおいて代表食材の販売を行ったほか、10月から始まる首都圏飲食店での福井フェアに合わせて、飲食店向けの食材セミナー、メディア向けの試食会、キッチンカーでのマルシェ出店等を行い、新しい代表食材の認知度向上を図ります。



■ 都市圏のターゲット層に対して**“売り”となる必食の逸品**を創出

8月に第1回「食で稼ぐ秘訣塾」を開催し、講師である岩城紀子氏提案の福井名物料理の試食やグループワークに、事業者約40名が参加しました。



■ **食文化魅力創造スクール**により人材を育成

学長に菊乃井の村田氏を迎え、7月に開講式を開催しました。9月末までに3コース計5回実習および講義等を実施し、35人が受講しました。



■ 一流シェフによる地域の食材を活かした**オーベルジュ**を誘致

敦賀金ヶ崎地区のほか複数か所でオーベルジュ整備に向け協議を実施しています。



■ 食ブランド力向上につながる**飲食店**等の開設を支援

国内外の有名店で修業したシェフが運営するフランス料理店など2件の出店に対し支援しました。



■ JR小浜線における**観光列車**の乗り入れ・周遊ツアーを実施

丹後くろまつ号の小浜線乗り入れ運行を10月に実施しました。4日間で6コース12便を運行するとともに、駅からの周遊ツアーを開催しました。



■ インバウンド対策 **Wi-Fi・キャッシュレス決済・免税店**を整備

福井市や小浜市等8市町が計画する多言語看板の設置やキャッシュレス決済設備等の整備に対して支援しています。



整備イメージ

■ 敦賀以西への誘客促進のため**嶺南誘客キャンペーン**を開催

嶺南誘客キャンペーン実行委員会「若者チャレンジ会議」を開催し、地元の若手事業者等と意見交換を行い、年度内に基本計画を策定していきます。



○ **国体レガシー**を活かし、「アスリートの聖地」へ

スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

■ **アスリートナイトゲームズ、日本スポーツマスターズ2023福井大会**などスポーツイベントの開催を支援

概ね35歳以上のシニアアスリートが参加する総合スポーツ大会を県内14市町で開催するなど、大規模スポーツイベントの県内開催を推進しています。



■ **ふくい桜マラソン開催**に向けた機運を醸成

リレーマラソンや目的地をめぐるロゲイニングなど、初心者でも気軽に参加できるランニングイベントを毎月開催。また、市町と連携し、スマートフォンアプリによるランニングなどでポイントを集めるオンラインイベントも開催しました。



■ トップスポーツチームを「**ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUIRAYS)**」

として徹底応援

福井丸岡RUCKと福井ユナイテッドFCの連携により、フットサルとサッカーの両方を1日で楽しめるW観戦企画「フットボールデー」が開催され、多くの県民が運動公園に観戦に訪れました。



■ 「**スポジョブふくい**」によるアスリートのUターンを推進

「スポジョブふくい」によるアスリートの就職支援を実施し、15人が令和5年春採用内定しました。また、令和6年春就職に向けたインターンシップ等の活動支援も開始しました。



■ 誰もが発表できる「**まちなかステージ**」の設置を支援

昨年度設置した福井駅周辺に加え、5月から敦賀市の国道8号歩行空間において、新たなまちなかステージを設置しました。



■ アーティストが地域資源を活かして制作活動を行う**アートプロジェクト**を応援

5月から地域資源を活かして新たに取り組むアートプロジェクト2件を含む芸術文化活動団体の活動費助成と芸術文化アドバイザーによる相談支援を実施しています。



■ **一乗谷朝倉氏遺跡博物館**を開館

10月1日に博物館を開館しました。同時に開館記念特別展「発掘調査の歩み」をスタートし、カフェ・ミュージアムショップもオープンしました。



■ **一乗谷朝倉氏遺跡全体の誘客**策を展開

博物館開館に合わせ、10月1日からARアプリ「戦国時空伝」をリリースするとともに、JR越美北線「戦国列車」や、案内ガイド付き遺跡周遊バスの運行を開始しました。



○ まちと暮らしに音楽・アート

デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる「おもしろい」まちづくりを進めます。

■ 若手アーティストによる「**まちかどコンサート**」を開催

10月2日のエルガイアおおいを皮切りに、福井ゆかりのアーティストによる17市町での「まちかどコンサート」がスタートしました。



伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

■ 丹南伝統工芸産地における本物体験プログラムを造成

丹南広域観光協議会における、越前和紙や越前打刃物などの伝統工芸体験プログラム等の造成を支援しています。



■ 県内外のデザイナー等とコラボした**伝統工芸ブランド「F-TRAD」**による商品を開発

県外デザイナー7人と伝統工芸産地の事業者がコラボレーションし、「F-TRAD」商品の開発を進めています。



(2)次世代チャレンジ宣言 ～チャレンジで未来をつくらう～

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

■ 知事のトップセールスによる先端企業の誘致を促進

企業立地セミナー等での知事トップセールスを契機として、オンラインでのセミナーや面談なども活用して誘致活動を進め、海外企業との共同出資により日本酒の輸出拡大を図る企業などの進出を実現しました。



■ 高付加価値企業や、都市圏同様の待遇の維持など魅力ある企業を誘致

昨年度新設した補助制度を活用し、社員ファーストの環境整備を行う物流施設や、システム開発の拠点となるIT企業のオフィスが新設されました。



「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

■ 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで有望ベンチャーを育成

5月から若手起業家が集うベンチャー経営塾を開催し、成長意欲ある若手経営者10名が参加しています。また県内経営者に対するベンチャーへの意識啓発に向けたセミナーを行い、453名が参加しました。



■ 独創的なアイデアを持つ学生・若者スタートアップを創出

30代以下の若者を対象に先輩起業家をメンターに招き、起業家の考え方に触れるイベントを、9月に開催し、25名が参加しました。10月からは全5回の起業家育成連続講座を開始しています。



■ 事業承継に向けた企業価値向上と県外人材等による第三者承継を支援

県外人材等による第三者承継を進めるために、5月からサーチファンドを活用した事業承継の支援を開始し、サーチファンド運営事業者に対して、後継者不在の県内企業情報を提供しました。また、9月に県内支援機関・事業者向けのセミナーを開催し29者が参加しました。



■ 働きやすい職場づくりに取り組む「社員ファースト企業」を拡大

すべての働く人が安心して働き活躍できる職場を実現するため、県内企業による働きやすい職場環境づくりへの支援や取組事例の積極的な発信により、「社員ファースト」宣言企業は174社に拡大しました。



成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

■ 企業の人工衛星運用技術の習得を支援し、人工衛星製造のビジネス化を推進

県内企業グループが、衛星の運用技術を習得し、製造から運用まで一気通貫の体制を構築することを目的に、新たな衛星の開発を開始しました。



■ エネルギー関連など成長の見込まれる分野の可能性調査・技術開発を支援し、企業の稼ぐ力を向上

県の技術開発補助制度に、新たにエネルギー枠を設定し、地元企業が参画するエネルギー関連の共同研究5件を開始しました。



水を使わずに染色・加工した生地

■ 嶺南Eコースト計画に基づくスマートエネルギーエリアを形成

嶺南市町が進めるスマートタウンのモデル地区整備に向けた取組みに対して、嶺南スマートエリア推進補助金を活用し、支援しています。

また、嶺南市町および電力事業者と連携し、EVを活用したVPPの実証実験を行っています。



高浜町スマートタウンイメージ

■ 「立地地域の将来像に関する共創会議」に参画し、地域の将来像と、その

実現に向けた基本方針等を、国や立地市町、電力事業者とともに策定

共創会議において議論を進めてきた「将来像の実現に向けた基本方針と取組」が6月に取りまとめられ、高速炉研究開発の中核的拠点化に向けた調査の実施や原子力サイクルビジネスの国のリーディングプロジェクト化、水素の製造・発電実証プラントの整備、大阪・関西万博への水素供給などの取組みが示されました。



第4回共創会議

■ ICTを活用したスマート農業を推進

GPS田植え機など農作業の省力化・軽労化等を紹介するスマート農業機械の実演会を9月末までに14回開催し、導入を推進しました。



■ 園芸タウンの整備により園芸産出額を拡大

本年3月に奥越地区園芸タウン推進協議会を設立。植付け機や株割り機等を導入し、サトイモの生産拡大を図っています。



■ 農遊コンシェルジュの育成、農遊スタンプラリーで農村回遊を促進

4月から農遊コンシェルジュ育成研修を実施し、64名を認定しました。

また、県内の直売所や観光地111か所を繋ぎ、旅行者が農村を巡って楽しむ農遊スタンプラリーを開催しています。



■ 「ふくい型林業経営モデル」の構築による主伐・再造林を推進

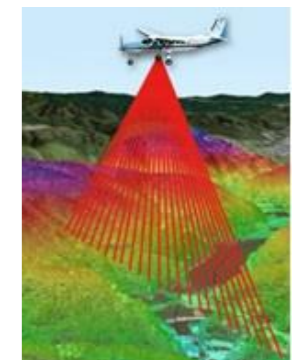
条件の良い森林において、所有者と事業者の間で10年程度の長期一括契約を締結し、効率的な主伐、再造林・保育を行うことにより収益の向上等を図る「ふくい型林業経営モデル」の構築を目指します。9月から伐採から運搬までの作業の効率化などについて現地実証を行っています。



あわら市清滝の実証地の様子

■ 航空レーザ計測による高精度の森林情報を共有・活用し、林業DXを推進

南越前町、おおい町において森林航空レーザ計測を進めており、年度末までに県内森林面積の46%(今年度累計)にあたる面積の計測を終える予定です。並行して、各自治体や林業事業者間で森林情報を共有する森林クラウドシステムの整備を進めています。



■ 「ふくいウッドチャレンジ推進ネットワーク」を創設し、民間施設での県産材

利用を拡大

企業における県産材利用を推進するため、関係団体等が連携し、県産材利用に関する情報の共有や企業からの相談対応等を行う「ふくいウッドチャレンジ推進ネットワーク」を10月に創設しました。



■ 水産学術産業拠点で水産増養殖の共同研究を開始、**養殖生産規模の拡大**を支援

小浜市堅海に新たに整備した水産学術産業拠点「かつみ水産ベース」において、4月からサーモンやサバの養殖の効率化や安定供給等に向けた共同研究を開始しました。



■ **農家レストラン**や**観光農園**を整備し、農山漁村の交流人口を拡大

南越前町に整備された道の駅「南えちぜん山海里」の横に、観光客を農山漁村に呼び込み、回遊してもらうための観光農園の整備を支援しています。



南越前町観光農園イメージ

○次世代を担う人材の輩出

AI時代に活躍する人材育成

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

■ DXラボと支援機関が連携し、**企業のDX推進を伴走支援型**で支援

ふくいDXオープンラボの相談員が6月から県内の商工会議所や商工会で出張相談会を開催し、9月末までに20か所で県内企業44件の相談対応を行いました。



■ 学生、転職者等を対象にITスクールを開講し、企業の**IT人材を育成・確保**

県内で活躍するIT人材を育成するため、10月から「ふくいITエンジニア養成スクール」を開講し、49名が受講しています。



■ IoT・AI・5G等の先端技術の導入による企業の**業務効率化、高付加価値化**を支援

県内企業の競争力強化のため、IoTなどのデジタル技術を活用した新サービスの提供や業務効率化を行う取組みを9月末までに26件採択しました。



■ **県外IT人材の雇用、副業・兼業の都市部人材の活用**により県内企業の

成長を支援

県内企業のDXを推進するため、副業・兼業人材を活用した業務改善や新事業創出に向けた取組みを9月末までに3件採択しました。

デジタル技術による業務改善等に向けて
新たな人材確保を行う事業者さまに

正社員雇用：最大250万円
副業・兼業人材活用：最大50万円
を補助！

福井県庁からご案内
『社内変革に向けた即戦力人材雇用促進補助金』

産学官連携による地域人材の輩出

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

■ 県立大学に「恐竜学部(仮称)」を新設

令和7年4月の学部開設に向け、勝山市に設置予定の学部棟の基本設計を行う事業者を選定し、設計に着手しました。



■ 大学と産業界等との連携により社会人のリスキリング教育を展開

地元企業のニーズに応じたDX実践講座やマネジメント講座を開催しました。



■ 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「ふくい創生人材」を輩出

県内大学・企業・市町・県が協働して地域の課題解決に取り組むPBLを企業・団体等 67 件、自治体 33 件の合計 100 件実施しました。



■ 園芸・林業・水産カレッジにて次世代の農林水産業人材を育成

【園芸】今年度、新たに 30 名が入校。模擬経営研修や栽培技術研修を開始しました。

【林業】今年度、新たに 13 名が入校。7月末に短期コースの5名が修了し、全員が県内に就業しました。

【水産】今年度、新たに 12 名が入校。漁船漁業コースの6名が修了し、全員が県内に就業する予定です。



日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくとともに、「子だくさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくりま

■ ふくい結婚応援協議会を核としたオールふくいの結婚支援

県全域の独身者を対象に、嶺南地域の恋愛・結婚スポットなどをめぐるツアー型の婚活イベントを開催しました。また、ふくい婚活サポートセンターのマッチングシステム登録者向けの相談会やセミナーを開催しました。



■ 多子世帯への支援を第2子からに拡大「子だくさんふくいプロジェクト」を実施

今年9月から第2子の保育料無償化の所得制限を年収 640 万円未満の世帯まで拡充し、多子世帯への支援を強化しました。



■ 第2子以降の3歳未満児童の「在宅育児」を支援

全ての市町と協働し、年収 360 万円未満世帯を対象に在宅育児応援手当を支給しています。



■ 男性育休や短時間勤務、不妊治療休暇など子育てしやすい職場環境を整備

企業に対し、男性の育児休業等を推進する奨励金を支給しているほか、定時退社や育児休業を取得しやすい職場環境づくりを推進する「かえるプロジェクト」を展開しました。



■ 在宅で子育てしやすい**テレワーク環境**づくりを推進

育児や介護などの事由で通勤が困難な方の雇用や就業継続を促進するため、テレワーク導入企業に対する支援を行うとともに、新たな導入や定着を促進するため、セミナーへの参加の働きかけを国との連携により実施しました。



■ 「**ふく育**」**応援団**によるすべての子育て家庭と妊婦の応援、子育て情報を一元化

11月の「ふく育割」発行に向け、妊婦や子育て世帯に優待サービスを提供する「ふく育」応援団店舗を増やしています。



■ 地域における**全天候型の遊び場**の整備を支援

現在、各市町が全天候型の遊び場整備に向けた検討を進めています。



■ **フォスタリング機関**による里親の確保と質の高い里親養育を実現

里親のリクルートや、里親を対象とした研修の実施に加え、里親家庭への訪問や休日・夜間の相談対応等を実施しました。



■ 父親が子どもとお出かけしやすい環境を整える「**ベビサポトイレ**」の整備を支援

「ふく育」応援団参加店舗や各市町において、男性トイレへオムツ交換台やベビーチェア等の設置が進んでいます。



■ 子育てのイメージをプラスに変える**子育てバックアップキャンペーン**を実施

定時退社や育児休業を取得しやすい職場環境づくりを推進する「かえるプロジェクト」を展開したほか、今後、「ふく育県」の子育てのしやすさを認知してもらうためのキャンペーンを展開します。



(3)しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになろう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る「県民総参加」の社会をつくれます。

○県民の“夢実現”を徹底応援

県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

■ 地域のリーダーとなる若者を育成する**教育プログラムコース**を実施

地域のリーダーとなる若者を育成する実験的仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」を9月に開校しました。90名の申し込みがあり、その中から25名の受講生を採用。3月までの半年間、県内外のエキセントリックな講師を招き、様々な講義やフィールドワークを実施していきます。



■ 若者による若者応援組織「**ふくい若者フォーラム**」の活動を支援

一歩踏み出したい、アクションを起こしたい若者が一同に集まり、「ふくい若者ミライ会議」を9月に開催しました。25名の若者が、地域で活躍するプレイヤーから直接アドバイスを受け、活動の第一歩を踏み出しました。



■ **若者・女性・NPO**のチャレンジプランコンテストを開催し、徹底応援

女性や若者、NPOが実施する福井の活性化につながる新たな活動プランを応援する「県民ワクワクチャレンジプランコンテスト2022」を7月に開催しました。女性部門6件、若者部門4件、NPO部門5件のプランを採択しました。



■ ふるさと納税活用の**クラウドファンディング**により県民活動を応援

19事業者がクラウドファンディングを実施または実施に向けて準備中。9月末までに3事業者が目標金額を達成しました。



○課題解決へ**県民アクション**

県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を広げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

■ 将来構想実現に向けた県民主権の「**FUKUI未来トーク**」を開催

長期ビジョンの普及に向け、大学生を対象としたワークショップを実施したほか、県民が自らのアクションを考え、発信する「FUKUI未来トーク」をWEBや集合形式にて開催しました。



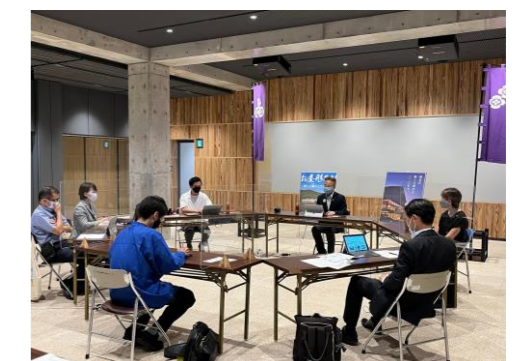
■ 「**SDGsパートナー**」の登録拡大、連携により次世代を育成

「ふくいSDGsパートナー」の取組みをPRするとともに、県民のSDGs活動実践を促進するため、9～10月を独自のSDGs月間に設定。パートナーが実施する134件の県民向けSDGs関連イベント等を一体的に広報しました。



■ 県内デザイナーとの協働による「**政策デザイン**」を強化

県内デザイナー等との政策検討ワークショップを19回開催しました。また、政策立案の上流部分から県民目線で質の高い政策を立案するため、知事とデザイナーによる政策検討ミーティングを実施しました。



■ 県と**市町協働**による課題解決策の検討やシステム共同化を推進

全市町にマイナポイント支援員を派遣するなど、県と市町が協働しマイナンバーカード取得促進に取り組んだ結果、普及率は62%に達しました。
また、8月には、「開業・開通に向けた知事と市町長との政策ディスカッション」を県内3エリアで開催しました。



■ 県民向け**サービス連携基盤**を活用し、地域課題を解決

デジタルサービスをつなぎ、地域課題解決を図る新たなサービスを創出するデータ連携基盤を整備しています。現在、子育て世帯を対象としたプッシュ型でのクーポン発行に向けて、ふく育パスポートとふく割との連携を進めています。
また、市町との連携を深め、全县での生活のDX推進に取り組んでいます。



■ 「**多文化共生推進応援金**」により、外国人支援など多文化共生の地域づくりを行う

団体の活動を支援

外国人住民の暮らしの質の向上や共生の地域づくりなど、多文化共生の推進や外国人支援に取り組む活動を応援するため「多文化共推進応援金」を設け、7団体を支援しました。



■ 外国人が**住み・働きやすい環境**を整備し、活躍を促進

災害や生活情報等をSNS等にて外国人コミュニティに母国語で伝えてもらい、地域住民とのコミュニケーションの橋渡しや災害時の自助・共助の担い手となる「外国人コミュニティリーダー」を66名の方に委嘱しました。



■ 「**ふくい“しあわせ実感”パートナープラン**」に基づく男女共生社会の実現に向けた

取組みを促進

お茶の水女子大学と協働による女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」の開校や、女性活躍推進コンシェルジュによる企業訪問コンサルティングを実施しました。



○ローカルチャレンジ「**移住するならふくい**」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

■ アートキャンプなど**学生の長期滞在型キャンプ**の実施を支援

県内3地区(鯖江市、坂井市、小浜市)において、8～9月に、学生の夏季キャンプを実施しました。学生は、今後も週末等を利用して来県するなど、グループで取り組んでいる地域課題のプロジェクトを継続します。



■ 都市人材を呼び込む「**地方兼業**」の取組みを拡大

都市部で働く専門家(データ分析、デジタル人材育成、システム開発等)を兼業委嘱し、政策立案や事業執行のアドバイスや職員向けセミナーを通じ、高度な知見を県施策へ還元しました。



■ 地域との交流や体験活動を促進する「**ワーケーション**」の受入を推進

7市町のワーケーションパッケージの企画受入を支援しているほか、都市部企業や親子、インフルエンサーによる県内でのワーケーション体験を進めています。



■ しごと・住まい・定着支援を組み合わせ「**移住応援パック**」を発信

7月から都市部大手求人情報サイトに福井県特設ページを設け、福井の生活環境や若者・子育て世帯向け求人を掲載(若者向け 43 件、子育て世帯向け 20 件)し、マッチングを行っています。



■ **移住サポーター**による情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

移住サポーターをすべての市町に1人以上(19名5団体)委嘱し、移住希望者への相談対応や現地案内等を実施しています。



都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

■ 子育て世代への「**移住支援金**」を加算

東京圏からの子育て世帯の移住に対し、子ども一人当たり30万円を加算、東京圏以外からの子育て世帯の移住に対しては、最大30万円を加算し、9月末までに24件支援しました。



■ 三大都市圏における**就職支援協定大学**を拡大

新たに3校と協定を締結し、協定校は50校となりました。福井県出身学生を対象に就職支援説明会の開催や支援メニュー等の情報を提供します。



■ **若者や子育て世代**やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓

県内企業の仕事や暮らし、子育て環境を体験するツアーを企画し、9月末までに若者向けと子育て世帯向けにツアーを実施しました。



未来をつくる実践目標

チャレンジ 2022

【ver.2】

(令和4年度 分野別の主な施策)

<5つの分野>

○将来像の実現を目指して、次の5分野に分けて具体的な政策を企画・実行

○福井の「文化」と「デザイン」の力を活かし、政策の質を向上

学びを 伸ばす (人材力)	成長を 創る (産業力)	楽しみを 広げる (創造力)	安心を 高める (地域力)	ともに 進める (総合力)
ふくい人が宝。 地域を支え、 未来を創造する 人材の育成	力強い産業基盤 の確立。 チャレンジできる 地域経済の構築	多彩な魅力で 交流拡大。 交通新時代の 活力の創出	人生100年時代の 「健康文化」創造。 くらしを守る 安全・安心	協働による 県民主役の県政。 外に開き 連携強化

【施策の変更内容と項目数】

- 新たに追加した施策 (20項目)

	政 策		重点施策	施 策
学びを伸ばす (人材力)	1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成 <ul style="list-style-type: none"> 学力・体力全国トップクラスの高い基礎力をもとに、子ども自身の個性を「引き出す教育」、好奇心や探究心を持って学びを「楽しむ教育」を推進 自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの個性が輝く福井の子どもを育成 		個性を引き出し、学びを楽しむ教育プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 少人数学級や習熟度別指導、ICTの活用等の推進 ふるさと教育・キャリア教育の推進、スポーツ・文化芸術活動の充実 など 	<ul style="list-style-type: none"> 個性や主体性を発揮し、自らの可能性に挑戦する人材の育成 一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する教育の充実 郷土を学ぶ教育の推進など、ふるさとを愛する子どもの育成 教員の働き方改革や放課後児童クラブ等の充実など、子どもの成長を社会全体で支える教育環境の整備 など
	2 ふくいの産業・社会を支える人づくり <ul style="list-style-type: none"> 産学官連携により、福井の産業や自然を活かした教育・研究を推進し、若者に魅力的な学びの場を創出 人生100年時代のリカレント教育を充実し、生涯活躍し続ける創造性豊かな人材を育成 		「ふくい創生人材」育成プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 魅力的な大学づくりや高校等との連携強化による県内進学への促進 F A A (ふくいアカデミックアライアンス) による県内大学の連携強化 など 	<ul style="list-style-type: none"> 農や水産増養殖、古生物学の学術拠点など、新たな学部・学科の創設による若者に魅力的な大学づくり 地域でのフィールドワークや共同研究など産学官連携による地域人材の輩出 多様な人生設計を支えるリカレント教育の充実 など
	3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現 <ul style="list-style-type: none"> 女性、若者、高齢者など、性別、年齢に関わらず誰もが様々なことに挑戦できる共生社会を実現 障がい者、外国人など多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」を推進 		みんなが主役「ワンチームふくい」プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 「共働き方改革」による新たなライフスタイルの実現、若者・シニアのチャレンジ応援 障がい者、外国人の就労や生活環境の整備 など 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でも職場でもワークシェアを進め、男女が互いに尊重しあう「男女共生社会」の実現 若者同士のネットワークを拡大、面白い挑戦を「ちよい足し」応援 全世代の県民や企業等が社会貢献活動に参加しやすい環境づくり 障がい者の就労支援や外国人が住みやすい環境の整備 など
	4 希望が叶う「結婚・出産・子育て」応援 <ul style="list-style-type: none"> 将来を担う子どもたちを産み育てる若い世代を社会全体で支える仕組みを拡充 「日本一の出会い・子育て応援社会」を構築 		子たくさんふくいプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 多子世帯への経済的支援を2人目からに拡大 保育人材の確保など保育の受け皿の強化 など 	<ul style="list-style-type: none"> 「自然な出会い」の環境づくりなど新たな出会いのサポート 妊娠・出産前後からの切れ目ない支援体制を強化するなど安心して出産・子育てできる環境の整備 男性の育児・家事参加の促進やシニア・学生による子育て支援など子どもの健全な成長を社会全体で支える仕組みづくり など
成長を創る (産業力)	5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ <ul style="list-style-type: none"> 福井の生活・文化を形づくってきた農林水産業を大切に守り、次世代に引き継いでいくとともに、その魅力を福井の発信に最大限活用 新技術の活用などにより、力強い成長産業にレベルアップ 		稼げる農林水産業創出プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> スマート技術の活用による稼げる農林水産業の実現、カレッジ等での人材育成 農林水産業と観光等の他産業を結び付けるプラットフォームの形成 など 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業の普及や大規模経営化による生産性の向上 「いちほまれ」や「ふくいそば」など福井の美味しい食のトップブランド化 観光農園の整備など新たな交流促進による農山漁村の魅力創出 県産材の需要と供給を拡大し、育てる林業から稼げる林業へ転換 養殖生産やスマート漁業の推進など水産業の成長を促進 など
	6 地域経済のイノベーション <ul style="list-style-type: none"> 地域内の経営資源が循環する「福井型エコシステム」の構築、デザインの活用等による地域経済のイノベーションを創出 新技術の活用による生産性向上や人材確保、人を幸せにする働き方改革の推進など地域経済の持続的発展を応援 		お金・人・技術の地域内循環・拡大プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 有望ベンチャーへの投資などスタートアップ企業の発掘・育成 「後継ぎベンチャー」の支援など事業創継の推進 など 	<ul style="list-style-type: none"> 起業家による創業支援など地域内でお金や人を循環 デザインの力によるものづくり産地の魅力向上 和菓子店や酒蔵、伝統工芸など暮らしに根差した小さな企業の応援 AI、IoT等の新技術の活用による地域企業の生産性向上や外国人材の受入促進等による人材確保 幸せと生産性を両立する「しあわせ働き方改革」の実行 など
	7 Society5.0 時代の新産業創出 <ul style="list-style-type: none"> 高いものづくり技術を活かした成長産業への進出や新技術を活かした高付加価値産業への転換 若者や女性を惹きつける企業の誘致 		ものづくり産業の新市場挑戦プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 生産・データ利活用の拡大、人材集積を通じ、衛星ビジネスの国内拠点を形成 未来型エネルギー技術や自然に優しい新素材の開発 など 	<ul style="list-style-type: none"> 航空・宇宙、ヘルスケア産業など成長産業への進出を応援 AI・IoTなど技術革新を活かした新サービスの創出、高付加価値化 企業誘致による若者や女性を惹きつけるしごとの創出 スマートエネルギーエリアの整備や研究・人材育成の拠点形成など、嶺南「E コースト」の形成 など
	8 拡大する世界市場をふくいの成長へ <ul style="list-style-type: none"> 成長する地域や分野など世界市場の動向を見極め、県内企業の新たな海外展開に向けた支援を強化 食や伝統工芸など本物の魅力を海外に売り込むなど、世界市場の拡大を本県に取込み 		世界市場チャレンジプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 県民・企業のニーズに即したミッション型海外事務所の設置 国・地域ごとのニーズに応じたプロモーションなどインバウンドの拡大 など 	<ul style="list-style-type: none"> アジア・環日本海諸国への進出や販路開拓の支援など海外ネットワークの充実・強化 福井の文化や食を活かした海外売り込みの強化 オリンピックや大阪・関西万博等を活かした発信 敦賀港・福井港を活かした貿易拡大 環日本海、アジア、欧米諸国等との交流促進、国際人材育成 など

	政 策		重点施策	施 策
楽しみを広げる (創造力)	9 100年に一度のまちづくり ・北陸新幹線などの高速交通網の整備にあわせ、新幹線駅周辺のまちづくりや二次交通を整備 ・県内外との交流を拡大する県境フロンティア政策を推進		新幹線ゲートウェイ開発プロジェクト ・新たな4つの新幹線駅周辺のまちづくりを市町と協働し推進 ・観光型 MaaS の構築 など	○北陸新幹線や中部縦貫自動車道など高速交通網の整備促進 ○新幹線駅周辺のまちづくりを市町等と協働して推進 ○二次交通の充実や地域鉄道等への支援など持続可能な地域交通ネットワークシステムの構築 ○港・空港・道路などのふくいを支える交流基盤の整備・活用の推進 ○関西との近接性を活かした「WAKASA リフレッシュエリア」の形成 など
	10 北陸新幹線開業効果を最大化 ・誘客プロモーションによるふくいブームの創出や観光地の磨き上げ、インバウンド誘客などを集中的に実行し、新幹線開業効果を最大化		観光リゾートエリア形成プロジェクト ・恐竜博物館、東尋坊、丹南伝統的工芸品産地、三方五湖、若狭湾など観光地のスケールアップ など	○観光資源の魅力向上や周遊・滞在を促進する仕掛けづくり ○ブランド力向上やデジタル情報の発信拡大などによるふくいブーム創出 ○国・地域の特徴に応じた外国人目線のインバウンド誘客 ○おもてなしの向上などリピートしたくなる環境づくり ○DMO など地域が一体となった観光産業化の基盤づくり など
	11 人が人を呼ぶ、移住・定住新戦略 ・Uターン支援体制を強化するなど「待ち」から「攻め」の移住政策に転換 ・交流人口の拡大や多様な福井との「関わり」から移住・定住につなげる新たな仕組みを構築		関係人口拡大プロジェクト ・県外学生等の長期滞在・地域フィールドワークの促進 ・テレワーク、ワーケーションなど新たな働き方による都市人材の呼び込み など	○県内企業と県外大学生や都市圏の地方転職希望者との接点の拡大などによるUターンの促進 ○教育機関と産業界が一体となった学生の地元定着の促進 ○学生を滞在させるキャンプの拡大や市町と連携した「微住」の促進 など
	12 文化・スポーツがふくいの活力 ・長い歴史・生活が培った文化力や芸術文化への関心の高まり、国体・障スポ等を通して高まったスポーツ熱をまちづくりや交流人口の拡大に活用 ・デザイン・アートの充実やフェスの開催など若者に魅力あるイベントを拡充し、楽しみにあふれるまちづくりを推進		文化・スポーツによる「エンタメ福井」実現プロジェクト ・全国規模のスポーツ大会の誘致や参加型のスポーツイベントの企画・開催 ・音楽フェスなどにぎわいを創出するまちなかイベントの拡大 など	○千年を超える本県の歴史・文化遺産などをネットワーク化し、歴史ミュージアムふくいを発信 ○サブカルチャー・ポップカルチャーの振興など、「若者・よそ者」が集まるまちづくりの推進 ○スポーツツーリズムの推進や県内を拠点に活躍するスポーツチームの応援 など
安心を高める (地域力)	13 人生100年時代の健康ライフスタイル ・何歳になっても元気なうちは社会を“支える”役割を担うという新しい高齢者観を共有 ・人生100年を健康に過ごすための「ふくい型健幸サポートシステム」を構築し、福井発の「健康文化」を創造		ふくい発「健康文化」創造プロジェクト ・血液一滴がん検診の導入、ハイシルバークの促進など「いきがい寿命」の延長 ・「ふくい型健康リテラシープログラム」の開発 など	○フレイル予防等の促進による疾病・要介護化の徹底防止など100歳までの「健活力」の向上 ○通勤や買い物での歩く習慣づくり、健康的な食生活など、日常生活の中で健康に配慮した活動ができる環境整備 ○地域の健康づくりの担い手育成など住民サポートの強化 など
	14 いつでもどこでも安心の医療・介護・福祉 ・医療、介護、予防、生活支援がトータルで提供される「次世代包括ケアシステム」を展開 ・誰もが住み慣れた地域で安心して医療や介護、福祉サービスを受けられる環境を整備		次世代包括ケアシステム推進プロジェクト ・東大との新たな「ジェロントロジー4.0」共同研究や「回復型」フレイル予防の導入 ・医療・介護に生活支援を融合 など	○先端技術を活用したスマート医療、ドクタープール制度、ドクターヘリの活用等による地域医療の充実・強化 ○訪問介護の提供体制の充実や医療・介護・福祉に従事する人材の確保・育成 ○8050問題や育児と介護のダブルケアなど様々な課題に対応する包括的な福祉サービスの充実強化 など
	15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ・新たな技術や有償ボランティアなどの新たな共助の仕組みを活用し、いつまでも安心して暮らすことができる地域を構築 ・豊かな自然環境を保全するとともに、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、再生可能エネルギー導入等を推進		持続可能な次世代コミュニティ創出プロジェクト ・安心して暮らせる集落生活圏の形成、有償ボランティアの仕組みづくり ・ICTなど新技術の活用による地域の課題解決 など	○集落機能維持に対する支援やICT活用による新たな共助の仕組みづくり ○歴史的まちなみや自然景観など美しい景観の保全・形成 ○豊かな里山里海湖の保全と交流人口拡大への活用 ○再生可能エネルギー等の導入拡大や地球温暖化対策の強化、スマートエリアの整備 など
	16 防災・治安先進県ふくいの実現 ・頻発・激甚化する自然災害に対し、県土強靱化の推進や地域防災力の向上により備えを万全 ・子どもや女性、高齢者などが犯罪等に巻き込まれない安心して暮らせる社会を実現		安心の防災基盤強化プロジェクト ・大規模災害団員の確保支援や企業との連携等による防災力強化 ・治水・土砂災害対策など県土強靱化の推進 など	○県と市町の連携強化や地域の自助・共助による防災力と新技術の力の融合による災害への対応力の向上 ○インフラ老朽化対策や建設産業の担い手確保 ○子ども、女性、高齢者など県民を守る犯罪・事故対策を強化 ○県民の安全最優先の原子力政策の推進 など
ともに進める (総合力)	17 「チームふくい」の行政運営 ・徹底現場主義に基づき、県民主役の県政を実現 ・市町とのコミュニケーション強化や価値創造型の政策立案の推進		市町協働による行政サービス向上プロジェクト ・行政システムの共同化など県・市町共通の課題をチームにより課題解決 ・市町職員の確保支援、人事交流 など	○徹底現場主義やクレドに基づく県民主役の県政、市町との協働強化 ○SDGsの推進や政策デザインの考え方にに基づく政策立案と実行 ○AI等の活用による仕事の進め方改革と人材確保・育成 ○歳入確保と歳出の合理化・重点化、健全財政運営 など
	18 広域パートナーシップの強化 ・地方間の連携強化による高速交通網の整備促進 ・広域観光の推進など、県境をつなぐインフラを活用し、人・モノ・情報の活発な交流を促進		地方連携による基盤整備・交流拡大プロジェクト ・関係自治体と一体となった高速交通網の整備促進と県境フロンティア観光の推進 など	○高速交通網の整備促進や広域観光など連携による交流拡大 ○災害や疾病などに備えた広域連携の強化 ○全国の自治体と連携した政策立案や国等への提言 など

政策1 夢と希望を持ち、ふくいを愛する子どもの育成



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策1-2】 ○一人ひとりの多様性を認め合う教育の充実</p> <p>誰もが主役の共生社会を目指し、子どもころから一人ひとりの多様な存在や価値観を認め合い、協働して課題を解決する人材を育成する。</p>	<p>外国人児童生徒等に対する教育環境の整備</p> <p>○ウクライナ避難民の高校生が通う高校に、学習支援および日常会話の補助をする コミュニケーションサポーターを配置</p> <p style="text-align: right;">【教育庁】</p>	<p>・コミュニケーションサポーター 1人配置（R3:-）</p>

政策3 多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策3-4】 ○多様な人材が活躍する「ダイバーシティ地域経営」の推進</p> <p>県民の障がい者への理解を深めるとともに、障がい者が更に生き生きと働き、生活できる地域にする。</p>	<p>外国人が安心して快適に暮らし、働くことができる環境の構築</p> <p>○ウクライナ避難民の高校生が通う高校に、学習支援および日常会話の補助をする コミュニケーションサポーターを配置 ※再掲（施策1-2）</p> <p style="text-align: right;">【教育庁】</p>	<p>・コミュニケーションサポーター 1人配置（R3:-）</p>

政策5 農林水産業の力でふくいをブランドアップ



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策5-2】 ○「ふくいの食」のトップブランド化</p> <p>米やそば、地酒、トマト、かに、地魚など、美味しい「ふくいの食」の認知度を高めることにより、販売額を拡大する。</p>	<p>ふくいの畜産ブランドの確立</p> <p>○ 価格が高騰している配合飼料の購入経費を支援し、畜産農家の負担を軽減 【農林水産部】</p> <p>美味しい「ふくいの食」の認知度向上で販売拡大</p> <p>○ 肥料や燃油、農業資材等の価格高騰分を緊急支援し、経営が圧迫されている農家の経営継続を支援 【農林水産部】</p> <p>○ 輸入小麦の価格が高水準・不安定となる中、国産麦への切り替えを推進するため、営農技術の導入や生産性向上に必要な機械・施設整備の導入を支援 【農林水産部】</p>	<p>・ 支援件数 12件（R3:-）</p>
<p>【施策5-5】 ○ふくいの水産業のステップアップ</p> <p>新技術を活かした養殖業による生産拡大と地魚の戦略的な販売促進により、豊かな浜のくらしを実現する。</p>	<p>漁船漁業の効率化と地魚の戦略的販売</p> <p>○ 漁業用資材の高騰分に対し緊急支援を行い、影響の緩和を図ることにより漁業者の安定した経営を確保 【農林水産部】</p>	

政策6 地域経済のイノベーション



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策6-2】 ○デザインの中で魅力あるものづくり産地を創出</p> <p>産地全体にデザインの意識を浸透させることにより、国内外からの取引・観光が活発化する魅力的なものづくり産地を形成する。</p>	<p>人材育成の強化</p> <p>○ ビジネスモデルの変革による企業の持続的な成長を促進するため、経営層を対象とした新事業創出のためのセミナーを開催 【産業労働部】</p>	<p>・ セミナーへの参加者数 30人（R3:-）</p>
<p>【施策6-3】 ○くらしに根差した小さな企業の応援</p> <p>商工会・商工会議所等と一体となり、豊かなくらしの基盤となる小規模企業を継承・発展する。</p>	<p>新型コロナウイルス・物価高騰の影響を受けた事業者の事業継続への支援</p> <p>○ 売上等が減少した中小企業に対して、金融機関が伴走型の支援を行う制度融資の限度額の引き上げや、融資期間の延長によって発生した追加保証料への補助により、事業継続への支援を継続 【産業労働部】</p> <p>○ 原材料・原油価格の高騰や令和4年8月の大雨の影響により影響を受けた事業者への制度融資創設や利子補給により、事業継続を支援 【産業労働部】</p> <p>○ 原材料・原油価格の高騰に対応した経営体質への転換を図れるよう、国の緊急経済対策と連動し、県内企業が行うエネルギー効率に優れた設備等の導入促進を支援 【産業労働部】</p> <p>○ 生産性向上等による賃上げを支援する国の業務改善助成金に県独自で上乗せ支援を行い、中小企業の経営改善と労働者の所得向上を促進 【産業労働部】</p> <p>雇用の維持・確保への支援</p> <p>○ 子育て、介護支援等の幅広い分野での担い手の確保や多様な働き方の受け皿として期待される「協同労働」について、県民に周知し、活用につなげることにより、雇用を創出 【産業労働部】</p>	<p>・ 省エネに取り組む事業者数 20件（R3:-）</p> <p>・ 賃金引上げに取り組む企業数 250社（R3:-）</p> <p>・ 労働者協同組合に関するセミナー受講者数 150人（R3:-）</p>

政策7 Society5.0時代の新産業創出



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策7-1】</p> <p>○成長産業へのチャレンジ応援</p> <p>繊維や眼鏡などこれまで培ったものづくり技術などを応用し、需要増が見込まれる航空機産業やヘルスケア産業の分野で世界をリードする技術・製品開発を進め、県内産業の多様化や規模拡大を実現する。</p>	<p>オープンイノベーションによる稼ぐ力の強化</p> <p>○県内企業の販路拡大のため、大手企業の企画開発・研究部門に対する技術シーズの売り込みを実施し、商品開発の初期段階における県内技術の採用を促進</p> <p>【産業労働部】</p>	<p>・技術交流会への参加企業数 10社（R3:-）</p>
<p>【施策7-3】</p> <p>○多様な企業誘致の推進</p> <p>対話型トップセールスにより、ITサテライトオフィスや、本社機能の誘致など、若者や女性を惹きつける企業の立地を促進する。</p>	<p>産業団地の整備促進</p> <p>○北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道全線開通を見据えた企業誘致を促進するため、市町と協働して新たな県営産業団地の整備に着手</p> <p>【産業労働部】</p>	<p>・年度内に基本計画を完成</p>

政策9 100年に一度のまちづくり



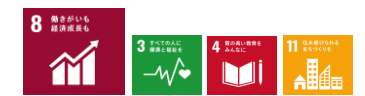
目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
【施策9-2】 ○新幹線駅周辺のまちづくり 北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出する。	新幹線駅周辺の整備 ○ 敦賀市中心部をにぎわいあるものとし、観光客の呼び込む核となるエリアのリノベーションを進めるため、県・市・地域金融機関が連携して中心市街地の 店舗改装や景観整備等を支援 【産業労働部】	・ 中心市街地の店舗改装等支援件数 6件 (R3:-)

政策10 北陸新幹線開業効果を最大化



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
【施策10-1】 ○観光客の心をつかむ魅力づくり 観光リゾートエリアの形成や産地連携による産業観光ビジネスへの展開を強化などにより、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や観光列車の運行などを推進し、誘客を拡大する。	観光を楽しむ・滞在したくなる仕掛けづくり ○ 令和7年に開催される大阪・関西万博において、関西広域連合のパビリオンに出展するため、 本県独自展示スペースの基本計画を策定 【交流文化部】	・ 年度内に基本計画を策定
【施策10-2】 ○ふくいブームの創出 北陸新幹線福井・敦賀開業に向け食や伝統工芸、観光資源など集中的なプロモーションやブランド力の強化等を行い、ふくいブームを創出する。	新幹線開業に向けた情報発信の強化 ○ 北関東 （埼玉県、群馬県、長野県、栃木県、茨城県）において、福井県の魅力を発信する恐竜、食などの イベントや物産展を継続的に開催 【首都圏統括監】	・ イベント回数 10回 (R3:-)
【施策10-3】 ○世界を魅了するインバウンド強化 国・地域などターゲットに応じた情報発信やコンテンツの充実、キャッシュレスの促進など外国人目線の受入れ環境の整備を推進し、インバウンドを拡大する。	インバウンド向け観光コンテンツの充実 ○ マラソン人口の多い台湾をターゲットに 、現地のマラソン展示会への出展や観光動画によるPRを実施し、 ふくい桜マラソンをきっかけにしたインバウンド誘客を促進 【交流文化部】	・ 展示会でのPR人数 300名 (R3:-)

政策12 文化・スポーツがふくいの活力



目指す姿	主な施策	目標 (KPI)
【施策12-3】 ○スポーツによるまちづくり・交流人口拡大 スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かす。	スポーツツーリズムの推進 ○ マラソン人口の多い台湾をターゲットに 、現地のマラソン展示会への出展や観光動画によるPRを実施し、 ふくい桜マラソンをきっかけにしたインバウンド誘客を促進 ※再掲(施策10-3) 【交流文化部】	・ 展示会でのPR人数 300名 (R3:-)

政策16 防災・治安先進県ふくいの実現



目指す姿	主な施策	目標（KPI）
<p>【施策16-2】 ○災害に強く、安心して暮らせる福井の基盤を構築</p> <p>事前防災対策および予防保全に基づいた老朽化対策等、「起きる前」を重視した県土強靱化を推進し、将来にわたり福井の安全・安心を確保する。</p>	<p>事前防災対策による「県土強靱化」の推進</p> <p>○ 令和4年8月の大雨で被害が発生した鹿蒜川等において、災害復旧および強靱化を推進 【土木部】</p>	<p>・ 災害復旧工事着手 鹿蒜川など39河川、国道365号など9路線</p>
<p>【施策16-3】 ○県民を守る犯罪・事故等の対策</p> <p>県民を犯罪や事故から守る対策を強化し、県民が安心して暮らせる社会を実現する。</p>	<p>交通事故防止対策の推進</p> <p>○ 運転者の横断歩道における歩行者優先意識の向上を図るため、事業者の協力を得たラジオCM放送等のキャンペーンを実施 【安全環境部】</p>	<p>・ キャンペーン賛同事業者数 50社（R3:-）</p>